

低中所得国小児がん生存率向上支援事業(小児がん支援)

- 世界の小児がん患者の8割は低中所得国の子ども達であるが、その8割の子ども達は十分な診断・治療を受けることができずに死亡している。これらの国の医療関係者は小児がんの診断治療の経験が不足しており、研修機会を強く求めている。
- 世界最高水準を保持する日本の小児がん医療技術を、国立国際医療研究センターと日本の複数の施設の専門家により、ベトナムのフエ中央病院とホーチミン小児病院第一およびカンボジアジャパンハート小児病院を対象に、小児がん生存率向上のための専門研修を行う。Web会議システムを活用し診断治療選択のための検討会を定期的に行う。
- 本事業の実施により専門的な治療技術を習得したのちには、令和3年度には小児がんの診断率と治療開始率が增加する。数年後には施設の小児がん生存率が向上する。その結果10年後程度には国内の複数病院の連携が構築され、国全体の治療成績向上が期待される。同時7に日本の拠点病院との国際連携が可能となり、これによりアジアにおける日本を核とした一大小児がん診療チームの形成が数十年後には期待され、日本の知財を展開することが可能となる。

